

講演会

市民と自治体がひらく非核・平和への道

—「新しい非核自治体宣言」と「自由と平和の声明」の出会い—

「核兵器のない世界」と「原発被害のない社会」、この二つの願いを、東京都多摩市では、福島原発事故を体験してほどなく「非核平和都市宣言」として表明した。

他方、「自由と平和のための京大有志の会」は、安保法制反対運動のなかで「声明」を発し、戦争

の発生・展開・結果を簡明な言葉で語り、学者としての覚悟を表明したが、それは20カ国を越える言語に翻訳され、その感動は世界にこだましている。

ここに、二つの宣言・声明の制定・起案された方をお招きし、非核平和への想いを語っていただくことにした。(裏面に資料掲載)

3月18日(土)13:30~16:30

講演：阿部裕行さん(東京都多摩市長)

「多摩市の非核平和都市宣言」

藤原辰史さん(京都大学人文研准教授)

「創造的な非核思想を求めて」

会場：京都教育文化センター ホール

〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町 4-13

電話：075-771-4221

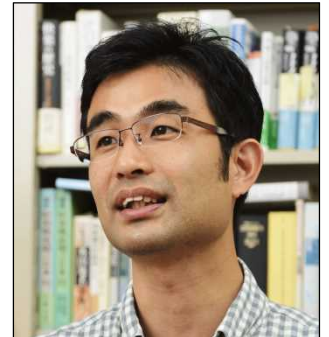
資料代：500円(高校生以下は無料)

※保育(学齢前まで)の必要な場合は、1週間前までにご連絡ください。



阿部裕行多摩市長

2010年 多摩市長就任
2011年 「戦争がなく、放射能被害のない平和な世界に向けて…」
非核自治体宣言を発する
2014年 多摩市長(2期目)



藤原辰史京都大学
人文科学研究所准教授

専門：ドイツ現代史、農業史
2009年 東京大学農学生命科学研究科講師
2015年 自由と平和のための京大有志の会声明を起案

主催:核兵器廃絶ネットワーク京都

アポリジョン2000 京都、京都宗教者平和協議会、日本科学者会議京都支部、平和友の会、原水爆禁止京都協議会、反核京都産業人の会、京都原水爆被災者懇談会、京都被爆二世・三世の会、非核の政府を求める京都の会、反核京都医師の会/JPPNW 京都府支部 ●連絡先:反核京都医師の会 TEL 075-212-8877 FAX 075-212-0707 メール nakamura@hokeni.jp

多摩市非核平和都市宣言

多摩市は、この緑豊かな土地に生まれ育ち、あるいは全国各地から夢と希望を持った、多くの人たちが集まってできたまちです。私たちは、太陽の光あふれるこの多摩市で、穏やかな日々の生活を平和だと感じて暮らしています。

この暮らしのなかで、いつしか広島・長崎の記憶が薄れつつあり、世界には今もたくさんの核兵器が存在すると知りながら、平和は失われやすいことを忘れかけていました。

平成 23 年 3 月の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に、私たちは多くのことを学びました。自然の力に対する謙虚さを忘れ、人間の科学技術を過信していたこと。安全と言われていた原子力発電所から、ひとたび事故が起これば大量の放射性物質が拡散され、大事に育て築いてきたものが、たちまち奪われうることを。

私たちは、人と人との絆を大切にし、原子力に代わる、人と環境に優しいエネルギーを大事にしていきます。そして、戦争がなく、放射能被害のない平和な世界に向けて、みんなが笑顔で、多様ないのちがにぎわうまちを、多摩市から実現していきます。

現在、そして未来の子どもたちに戦争の悲劇と平和の大切さを伝え、他の都市とともに世界の人々と手をたずさえて、全ての核兵器の廃絶と平和な社会を求めるために、ここに多摩市が非核平和都市であることを宣言します。

平成 23 年 10 月 24 日
(2011 年)

2015 年 7 月 2 日

戦争は、防衛を名目に始まる。

戦争は、兵器産業に富をもたらす。

戦争は、すぐに制御が効かなくなる。

戦争は、始めるよりも終えるほうが難しい。

戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。

戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。

精神は、操作の対象物ではない。

生命は、誰かの持ち駒ではない。

海は、基地に押しつぶされてはならない。

空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。

血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。

学問は、戦争の武器ではない。

学問は、商売の道具ではない。

学問は、権力の下僕ではない。

生きる場所と考える自由を守り、創るために、私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打ちこまなくてはならない。

自由と平和のための京大有志の会